

報告事項ア

平成25年度第2回鳥取県学力向上戦略本部会議の概要について

平成25年度第2回鳥取県学力向上戦略本部会議を開催しましたので、その概要について報告します。

平成25年9月6日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

## 平成25年度第2回鳥取県学力向上戦略本部会議 概要

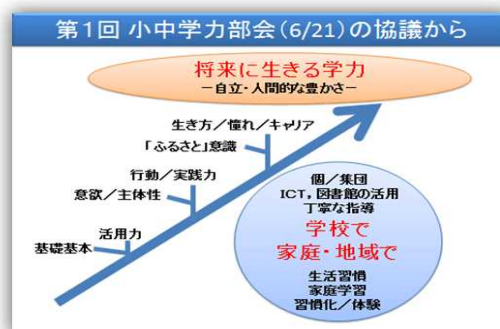
日時 8月13日(火) 午前10時から正午  
会場 鳥取県庁 議会棟 特別会議室

### 1 教育長挨拶

- 第1回本部会議では角屋座長から「鳥取県のめざすべきは人間的豊かさを求める一步進んだ学力向上策」というメッセージをいただいた。
- その後、小中学力部会を2回、中高部会を1回開催し、市町村教育委員会委員研修会において各市町村教育長へ協約の指標案についてお伝えし、ご意見を伺った。
- 本日は学校、県民の理解を得られる指標について協議いただきたい。

### 2 各部会報告

- 小中学力部会  
将来に生きる学力をめざし、指標の観点として「学力調査」「学びの質・学習意欲」「豊かに生きる・共に生きる力」を提案
- 中高学力部会  
全校共通の指標と各校が設定した指標を提案  
市町村教育長グループでの協議について
- 学力の二極化への対応、ふるさと鳥取という意識が話題となった。
- 指導者の質の向上、学校での教員の育成についてもふれた。



### 3 意見交換

#### (1) 指標の策定

##### 【めざす教育】

- 教育の目標は子どもの自立。鳥取県らしい教育として「豊かに生きる」をめざしてほしい。
- 「Education for Sustainable Development」(持続可能な発展のための社会をつくる教育)(ESD)は世界的な動向で、日本でも各自治体で取組が進んでいる。グローバルな人間の在り方・生き方を問う全人格的な教育で、これは教育基本法「人格の完成」と一致する。鳥取県も現在学んでいることが将来役に立つと実感しながら、ふるさとを学び、ふるさとから世界へ発信できるような教育をめざしたい。
- これからの教育のキーワードは「汎用的能力」。小中高から大学まで、学んだことを様々なところで活用できる力が望まれる。
- 学力の二極化に対して、二極化を解消する教育ではなく、それぞれの個に応じ、二つの山それぞれに対応する教育が必要だ。
- 「何のために学習するのか」「こうなりたいという自分」を考えることのできる学習の場を十分保障してほしい。
- 他者との関わりのなかで学ぶことを、さらに深めたい。

##### 【小中高の指標】

- 児童生徒は同じ鳥取県の子どもであるので、小中高の観点は共通したものであるべき。
- 学びの質を高めること・学力をつけることが、豊かに生きることに通じることを伝えてほしい。
- 各高校の目的に応じて指標の多様性を生かすのは良いが、教育委員会としてもうひとつ上位の概念での指標や共通な指標を作るべき。
- 高校の指標に、「25年1月～2月実施アンケート」の回答を指標に反映すべき。
- 高校は進路実績の指標だけではなく、夢の実現のための取組の指標が必要
- 観点【豊かに生きる、共に生きる】について高等学校共通の指標として、資料4「高校アンケート」の項目を検討し、実施も隔年から毎年へと変更して対応したい。
- 地域でのイベントにおいて専門学科の高校生の働きを目の当たりにし、教育成果が現れていると感じた。高校では「社会貢献できるような人間が育成されたかどうか」という指標は重要だ。
- 在学時の指標だけでなく、高校卒業後の指標を望む意見もいただいている。卒業後の自立は大事な観点である。

##### 【3つの観点：豊かに生きる共に生きる力・学びの質学習意欲・学力調査】

- 学力向上のための要素は、子ども、教師、学校・保護者・地域の三つ。その意味で小中学校課原案「指標設定の観点①②③」は適切なものとする。ただし、逆順とし、③豊かに生きる・

- 共に生きる力、②学びの質・学習意欲、①学力調査の順とするとより良い。
- 観点③、②、①は、よく練られており賛成する。さらに、今の鳥取県には、自分を律して目的を持って学ぶということについても指標がほしい。
  - 学力調査で「無回答率」の減少という観点は、重要である。

#### 【観点の構造化と運用】

- 三つの観点の関連性を明確にすべき。観点三つが調和しながら成立することにより、人間的豊かさを求める学力向上が可能となる。
- 「項目の関連性（因果）」、「在学年間を見通す時系列」、「私立学校の参加」以上の点から指標を構造化すべきだ。
- 各学年の発達や各校の状況に対応するために、三つの観点に強弱をつけて指標を運用する。

#### 【可視化できる成果の質】

- 学習意欲・学習の質・豊かに生きる・共に生きるの観点では、質的な成果が問われる。質的な成果が最も重要だと理解するが、これらを測ることは容易ではない。
- 児童生徒の成果確認には「僕はこれだけものを考えることができるようになった」の発言を成果としたり、面接法等もある。
- 人間の成長においては「他人の立場に立てるようになる」ということも重要な成果である。

#### 【課題】

- 子どもには自然体験の欠如を遠因とする人間関係づくりの能力不足と命を大切にする意識の欠如を感じる。さらに、保護者にも同様のことが言える。
- 中学校で高校説明会を開催するが、高校の管理職が難関校への進学ということを説明される。しかしそれは中学校の望んでいる高校説明ではない。自分の夢を叶えるために高校で学習する意義を説明してほしい。
- 三歳未満のお子さんを持つ保護者対象の講座を公民館で実施している。講座の様子から、教育には関心が高いが、その相談窓口等に困っておられるように感じる。

#### 【指標の整理】

- 結果を出すための環境整備における指標と結果としての指標を区別する。環境整備が最も重要であることを意識して、取り組んでほしい。
- アンケートの取り方として、因子分析を検討してはどうか。

#### 【指標の共有】

- この戦略会議の決定が全県統一のものではなく、決定事項のうち各市町村の教育課題と一致するものは採り入れ、そのほかについては市町村ごとに定めればよい。
- 戦略会議の決定は全県統一の決定と考えて出席している。

#### 【指標の周知】

- 学校の理解が重要。県民への周知のため、地域住民との座談会なども必要である。
- 学校には市町村と協力して理解を得る。そのためにも市町村教育長に委員をお願いしている。
- 指標は市町村への通知、各種会合での周知、校長会等での説明を想定している。
- 指標の文言の解釈も重要になる。どのような解釈が成り立つのか検証するため、モデル校やモデル地域の設定や、指標がこれまでの事業とどう関連するのか整理する必要もある。

#### 【調査結果の公表】

- 各学校の責任を持つ機関が、結果の公表についても責任を持つべき。

#### 【指標の決定】

- この会議での意見をもとに、高等学校課提案の指標を整理し、小中高指標の修正案を作成する。
- 後日、各委員へ修正案を郵送し、御意見をいただく。

## 4 第3回予定

10月11日（金）13：30～15：30（同会場）

(案)  
鳥取県の子どもたちの未来のための教育に関する協約に係る取組の指標等

2013.8.21  
教育総務課

<取組の指標等>

**指標の観点**

- ①**豊かに生きる、共に生きる力** (自立・貢献・自治、夢・憧れ、ふるさと意識など)
- ②**学び方の質・学習状況** (意欲、授業に向かう姿勢、家庭学習)
- ③**学力調査** (基礎基本、思考力・判断力・表現力)

**【観点①：豊かに生きる、共に生きる力】**

- ◆ **自分自身や他者、社会等との関わりに関する意識**
  - 「ボランティア活動に参加している」生徒の増加 (小中高)
  - 「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」生徒の増加 (小中高)
- ◆ **進路に向けた意識**
  - 「将来の夢や目標を持っている」生徒の増加 (小中高)
  - 「自分の進路を実現するために、目標に向かって努力している」生徒の増加 (高)
- ◆ **地域社会への参画状況**
  - 「地域の行事に参加している」生徒の増加 (小中高)

**【観点②：学び方の質・学習状況】**

- ◆ **意欲、授業に向かう姿勢**
  - 「身に付けた知識・技能や経験を生活の中で活用できないか考える」生徒の増加 (小中)
  - 「教科学習が将来社会に出たときに役立つと思う」生徒の増加 (小中)
  - 「授業の中で『わかった』、学んだことについて『もっと知りたい』と感じる」生徒の増加 (小中)
  - 「調査結果を授業改善に活用している」学校の増加 (小中)
  - 「興味がある内容について、自主的に学んでいる」生徒の増加 (高)
  - 「学校の授業は、内容がわかりやすく、充実したものが多い」と感じる生徒の増加 (高)
- ◆ **体験活動・読書活動の実施状況**
  - 「授業で体験的な学習を取り入れている」学校の増加 (小中)
  - 「図書館を活用している」「家や学校で読書をしている」生徒の増加 (小中)
  - 「全校一斉読書に取り組む」学校の増加 (小中高)
  - 「職場体験やボランティア活動など、学校外での多様な活動ができる」と感じる生徒の増加 (高)
- ◆ **家庭における学習等の状況**
  - 「家で継続的に学習している」生徒の増加 (小中高)
  - 「進んで取り組んでいることをほめている」保護者の増加 (小中)

**【観点(3)：学力調査】**

- ◆ **上位層の増加、下位層の減少 (小中)**
- ◆ **過去の調査と同一問題の正答率の増加 (小中)**
- ◆ **無解答率の減少 (特に「活用」に関する問題) (小中)**
- ◆ **各校が設定した指標の達成 (高)**

(出典)

小学校・中学校：全国学力・学習状況調査等による

高等学校：高等学校教育改革に関するアンケート、各校実施調査等による